

# 『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第60号(2010年8月13日)上海万博③



## 国家電網館

上海万博の来場者数は開催から3か月の折り返し地点にあたる7月末の時点で延べ約3,482万人に達し、ほぼ計画通り順調に推移しています。

開催国の中国館、高い投資額を注ぎ込んだサウジ館、技術力で人々を魅了する日本館以外に、「テーマ型」のパビリオンも会場に訪れる人々から注目されています。この「テーマ型」のパビリオンの中で、中国の「国家電網館」が最も人気が高いようです。同館最大の見ごろは「魔法の箱」と呼ばれている6面体の不思議な空間です。長さ14.9メートル、高さ13.9メートル、112個のLEDスクリーンで周囲720度を囲まれ、マルチメディア視聴芸術を通じて人とエネルギーの調和を表現しています。



国家電網館の外観

## スマートグリッド（次世代送電網）

国家電網館は、隠れポイントとして、地下に万博会場および周辺の電力を管理する変電所などの電力管理施設を設置してあります。来場者は透明の床を通じて、万博会場とすべてのパビリオンに電力を供給するシステムを見ることができます。

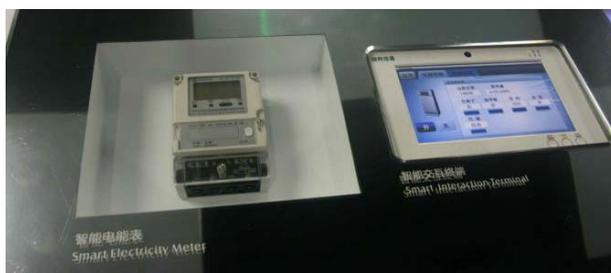
今年3月に中国政府が今後10年で「スマートグリッド」を活用した電力供給体制の整備に4兆元(約50兆円)規模の投資を行うことを発表しました。万博は、中国政府や国家電網会社にとって、中国国民にのみならず、世界に中国が「スマートグリッド」事業に対していかに本気で取り組んでいくのかを示す大きなチャンスとも言えます。

### 風力発電の紹介



出所: スパークス・アセット・マネジメント撮影

### 展示されているスマートメーター



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

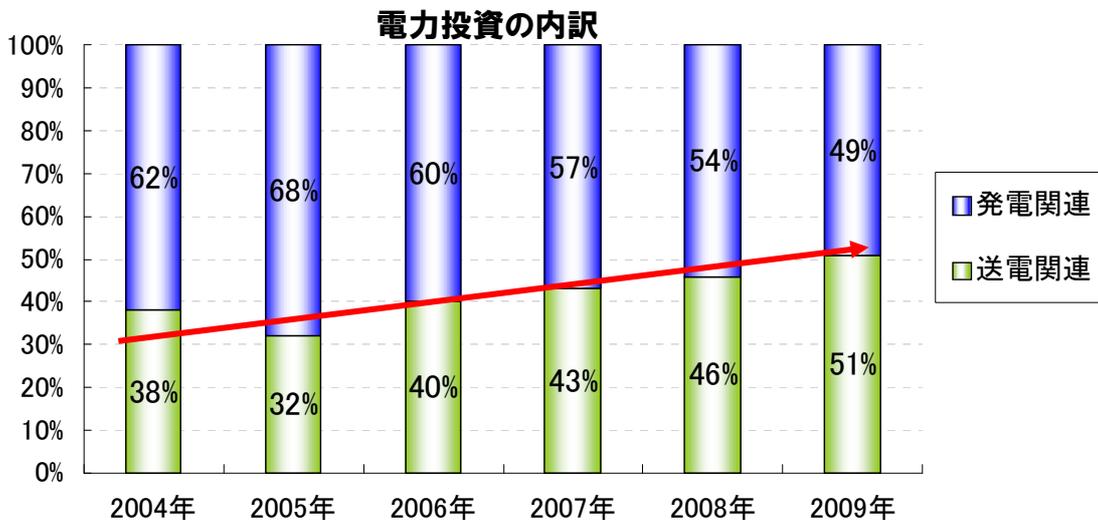


## 中国の電力事情

2020年までの4兆元(約50兆円)規模の投資の内訳は明確にはされていませんが、自然エネルギーによる発電設備だけの投入ではありません。下のグラフからわかるように、今の中国は「発電」以上に「送電」により一層力を入れています。弊社の「まいこばなし」第43号にて紹介させていただきましたが、現在、「直流超伝導送電システム」により、技術的には大陸間での送電が可能となります。国土が広く送電ロスが多い中国でも、こうした技術が使用されれば、従来の送電方法による電力のロスをほぼゼロに抑えることができるようになります。

中国政府が本格的に送電関連の事業に取り組むことにより、国家が構想している「東電西送」(経済発展している沿岸部で使用する電気を内陸部より供給する政策。)が一步現実に近づくのではないのでしょうか。同時に、送電インフラの充実は自然エネルギーの拡大と相乗効果があるため、国家が掲げた2020年までに二酸化炭素排出量を、GDP比(05年水準より)40~45%削減するとの目標も実現の可能性が高くなると考えられます。

一方、中国の送電ビジネスの拡大は、同分野で先端技術を有する日本企業にとって絶好のビジネスチャンスとも言えます。



出所: CICC(中国国際金融有限公司)

(編集後記)6月に上海万博会場でのコンサートを予定していたものの直前にキャンセルとなったSMAPが、10月に上海でコンサートを行うことが発表されました。10月9~10日、上海体育場で開催され、約8万人のファンの来場が予定されています。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。